

健康

元気のヒント

◇73◇



成石 浩司

徳島大学病院歯科外来院長

(常在菌)の塊で、歯を磨かないとすぐ歯面に付着してしまうので、治療が終わった後も歯科での定期検診が必要となります。これも歯周病の特徴と言えます。

歯周病

歯周病は、歯の周りの歯肉が腫れ、骨が溶ける感染症で、40歳以上の8割超の人が何らかの症状を持つといわれています。また、歯周病は痛みがなく進行するので「沈黙の疾患」とも呼ばれ、疼痛を感じた時には既に重症化しているという特徴があります。早期発見のために、歯を磨くと出血する、口臭がある、歯がぐらぐらするといった症状を自覚したら、お近くの歯科医院を受診することをお勧めします。

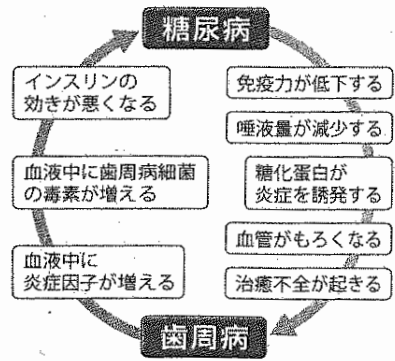
歯周病の原因は、歯の周りに付着したプラーク(歯垢)です。プラークが固くなると歯石と呼ばれます。プラークは口腔内に住み着いている細菌

主な歯周病の進行因子

口腔内	過剰なかむ力
	歯並びの悪さ
	口呼吸
	口腔乾燥
全身	喫煙
	ストレス過多
	不規則な生活習慣
	糖尿病
	肥満
	骨粗しょう症
	妊娠
	老化

糖尿病は歯周病の重要な進行因子です。歯周病は、腎症、網膜症、神経障害などと並んで糖尿病の合併症であるといわれています。

糖尿病治療と関連も



ています。糖尿病も歯周病による死亡率が全国ワースト1位です。今後、県内の関連内科と歯科のより一層の積極的な医療連携が望まれます。2007年4月、10年間にわたる国の健康指針「新健康フロンティア戦略」が発表され、その中に「歯の健康」が組み込まれました。第1次安倍内閣の時です。これまでの歯を守るための歯周病治療は、現在では血糖値の改善など、全身の健康を守ることに貢献すると考えられています。健康のため、ひいては長生きのため、定期的に歯周病検診を行うよう心掛けてみましょう。(第2土曜に掲載)

40歳以上の8割が感染